

新潟地区鉄骨ファブ

14年の回顧と来期の課題

新潟地区の鉄骨ファブは旺盛な首都圏再開発案件を背景に高い山積(受注残)を抱える。それらの需要や補助金、優遇制度を活用した老朽化設備投資の更新や人材確保に動きが見られる一方で、まだまだ加工単価の是正は道半ばという。14年を振り返り来期に向けた課題を探る。

(杉原 英文)

今年春、全構協、鉄が出てきている」と鉄建協共同で作成した業骨ファブ幹部は語る。界PRのDVDは反響 同氏は先日、工業高が大きく、両団体では 校から講演を依頼され引き続き若手社員教育 就職担当の教諭に向けDVD作成に着手 前述のDVDを視聴している。「将来的に てもらったところ」子業界外の一般の方にも 供たちに今まで経験し鉄骨業界の実態を知ったことを話してもらえ「てもらおう」という機運 ないか」と要請を受け

「10年来見 今の価格差の半分程度 ような業界に、若年労働者の定着のために は、福利厚生も、設備更新もしなければならぬ。収益は社会貢献、株主、社員、次の世代にも投資しなければ。人材育成、社員教育への投資は今ままであまりに環境が悪く全く対応できなかった。設計施工の協力や生産性、コストダウンに協力して取り組むなど、その流れはいずれ地方にも波及してくる」と感じている。

「題材はまだ決ま きたファブは首都圏の っていないが、この業 旺盛な需要に支えられ 界に少しでも人材が集 った。県内も底は脱した

「次世代育成最後のチャンス 加工単価が足踏みし

加工単価是正は道半ば

首都圏需要旺盛 次世代育成の好機

「あるゼネコン担当 者によると対策を打っ ても将来的に躯体業者 が急増することはなく、 現状をどう維持しなが っていくかが重要。RC 造からS造へ転換も視野に入るだろう。鉄骨 は工場加工が中心で自

地方と中央の “格差” 拡大

今年を振り返り「こ

業界意識の変化

「安値受注を断る勇